

別紙 1 : 各取組プログラムの実施状況一覧

(1) 魅力向上プログラム

- ・ 本取組テーマでは、情報案内機能の向上、誘導標識・解説標識等の整備・更新、滞在空間の上質化、保全活動の強化の4区分で、計14の取組を実施します。

○情報案内機能の向上

- ・ 利用者が尾瀬で充実した時間を過ごし、尾瀬の魅力を享受できるように、尾瀬の魅力やアクセス、過ごし方等を学ぶために、既存の情報媒体の改訂や有効活用を図ります。

1. 尾瀬環境学習支援セルフガイドの活用				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要	2021 度に環境省からの受託事業によって作成したセルフガイドを尾瀬沼ビジターセンターに設置して、尾瀬訪問者や学校団体等の学習支援に活用する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内・小中学生(尾瀬沼地区)	
取組	状況	実施中	期間	複数年(2022年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬沼ビジターセンター)		
	実施済			
	2022 年度	尾瀬保護財団 HP 及び尾瀬沼ビジターセンターで紹介		
	2023 年度	同上		
	2024 年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

2. ハイキングガイドの頒布				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要	尾瀬国立公園の快適な利用をサポートするため、尾瀬の概要、ルール、アクセス等が入った地図を作成し、利用者に対して頒布している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内外、その他は特になし	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター(協力金)、尾瀬外(各種イベント会場(無料))、情報媒体(尾瀬保護財団HP(無料))		
	実施済	尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンターにおいて配布、財団HPに掲載		

	2022 年度	同上	
	2023 年度	新たに群馬県内アウトドアショップに設置（無料）	
	2024 年度	未定	
目 標 値	期限	(いつまでに)	
	項目	(何を)	
	数値	(どうするか)	

3. 尾瀬パンフレットの作成・配布			継続	
実施主体	環境省	連携先	—	
目的と概要	尾瀬国立公園を利用するにあたってのマナーや注意点、および地図についてまとめたパンフレットを作成し、利用方法だけでなく魅力や過ごし方について説明することで、尾瀬国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的とする。その一つとして、尾瀬における写真映えする場所（フォトスポット）を取りまとめ、パンフレット等で紹介する。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者（特に行動計画を立てずに尾瀬へ来訪した利用者）	
取 組	状況	実施中	期間	複数年（2007 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、尾瀬外、情報媒体（2020 年度から尾瀬国立公園サイトにも掲載）		
	実施済	2020 年度に、これまでの「尾瀬国立公園インフォメーションマップ」を大幅改訂し、各コースの利用方針を分類・明記するとともに、尾瀬の利用方法だけでなく、楽しみ方・過ごし方を明記した。		
	2022 年度	楽しみ方・過ごし方の提案を強化するため、尾瀬国立公園コンテンツ集とフォトスポットを紹介する QR コードを追加予定。		
	2023 年度	同インフォメーションマップを各登山口、ビジターセンター、山小屋、道の駅、その他山麓の施設に配布した（内容の改定は未実施） インフォメーションマップとは別に、尾瀬に興味を持っていると思われる潜在層を対象にした、「滞在利用促進パンフレット及びポスター」を制作し、道の駅、その他山麓の施設に配布した。		
	2024 年度	同インフォメーションマップを各登山口、ビジターセンター、山小屋、道の駅、その他山麓の施設に配布予定（内容の改定は未実施）。 滞在利用促進パンフレット及びポスターを、道の駅その他山麓の施設ほか、首都圏のアウトドアショップ等に配布予定。。		
期限	(いつまでに)	毎年 4 月末までに		

目 標 値	項目	(何を)	インフォメーションマップ を	
	数値	(どうするか)	尾瀬関連施設に 10,000 部 配布	

○誘導標識・解説標識等の整備・更新

- ・ 利用者が戸惑うことなく目的地への道順や、目的地やその途中での尾瀬の楽しみ方感じ取ってもらえるよう、誘導標識・解説標識等の整備・更新を行います。

4. 尾瀬ルート沿線地域活性化事業				継続	
実施主体	尾瀬ルート活性化委員会		連携先	新潟県、魚沼市、民間事業者	
目的と概要	尾瀬国立公園の快適な利用をサポートするため、尾瀬の概要、ルール、アクセス等が入った地図を作成し、利用者に対して頒布している。				
主な該当戦略	ビギナー戦略・リピーター戦略		ターゲット		
取 組	状況	実施中		期間	複数年（2009年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（小沢平登山道）			
	実施済	高石沢及びトクサ沢への簡易橋（2橋）等の設置及び撤去。 登山道の草刈り等実施			
	2022年度	高石沢、トクサ沢の簡易橋設置、登山道の草刈りを実施（トクサ沢、河川増水により流失）			
	2023年度	同上			
	2024年度	同上			
目 標 値	期限	(いつまでに)	継続事業（春期に簡易橋等設置、冬期撤去）		
	項目	(何を)	小沢平登山道の整備（簡易橋等設置撤去、草刈り実施）		
	数値	(どうするか)	草刈り及びロープ設置：登山道（小沢平裏燧線）約5km、簡易橋設置撤去：2橋		

5. 魚沼から行く尾瀬ルート国道352号 道標整備事業				完了
実施主体	新潟県魚沼地域振興局		連携先	尾瀬ルート活性化委員会
目的と概要	尾瀬へ向かう旅行者に安心感や期待感を与えるため、尾瀬までの距離を知らせる既設道標を更新・増設する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	—

取組	状況	完了	期間	複数年（2018年～2021年）
	場所	尾瀬外（国道352号）		
	実施済	国道352号の既設道標を更新・増設。		
	2022年度	終了		
	2023年度			
	2024年度			
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

6. 魚沼から行く尾瀬ルート国道352号 洗い越し改築事業				継続
実施主体	新潟県魚沼地域振興局	連携先	—	
目的と概要	国道352号の安全性向上とバスの運行確保を図るため、洗い越しの段差解消を目的とした改築工事（5箇所）を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	—	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020年～2023年）
	場所	尾瀬外（尾瀬に至るまでの銀山平～御池の国道352号）		
	実施済	洗い越しの改築工事を実施（1箇所）。		
	2022年度	洗い越しの改築工事（2箇所）を実施		
	2023年度	洗い越しの改築工事（2箇所）を実施		
	2024年度			
目標値	期限	（いつまでに）	2023年度（今年度中）	
	項目	（何を）	洗い越しの段差解消	
	数値	（どうするか）	段差を解消する改築工事5箇所の完了 R3：1箇所、R4：2箇所、 R5：2箇所	

7. 誘導標識の作成・設置				完了
実施主体	環境省	連携先		
目的と概要	環境省直轄歩道について、誘導標識が少なく、利用者の安全性・利便性の点で不十分な状態であると考えられる区間に対して、簡易な誘導標識（現在地入・英語併記）を作成・設置し、公園利用上の安全性、利便性を高める。			

主な該当戦略		リピーター戦略	ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者（特に登山等の経験が浅い利用者）
取組	状況	完了	期間	複数年（2018年～2022年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（赤法華鳩待峠線、尾瀬沼南岸線）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> 赤法華鳩待峠線について簡易誘導標識（19枚・箇所）を作成して設置。 尾瀬沼南岸線について簡易誘導標識（5枚）を設置。 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬沼南岸線について簡易誘導標識（5箇所）を設置（2022年度で事業終了） 		
	2023年度			
	2024年度			
目標値	期限	（いつまでに）	2022年7月に	
	項目	（何を）	簡易誘導標識を尾瀬沼南岸線に	
	数値	（どうするか）	5箇所設置済み	

8. 解説標識の作成・設置

継続

実施主体		環境省	連携先	
目的と概要		探勝エリア・コースは自然探勝を目的に、ハイカーなどに幅広く利用され、自然環境学習の場として利用を積極的に推進していくエリアやコースだが、赤法華鳩待峠線の探勝エリア・コース（山ノ鼻～竜宮十字路～見晴間、沼尻～大江湿原～沼山峠間）では、解説標識が全くなく、利用者の利便性の点で不十分な状態であるため、解説標識を作成・設置する。		
主な該当戦略		リピーター戦略	ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者（
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（赤法華鳩待峠線の探勝エリア・コース）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> 解説標識を作成（13基） 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> 赤法華鳩待峠線の探勝エリア・コースに、解説標識を設置（13基（尾瀬ヶ原エリア7箇所、尾瀬沼エリア6箇所））。【未実施】 		
	2023年度	実施体制が整えることができなかったことから未実施。		
	2024年度	体制が整い次第、解説標識の内容整理から着手予定		
目標値	期限	（いつまでに）	2025年度末までに	
	項目	（何を）	簡易誘導標識を尾瀬沼南岸線に	
	数値	（どうするか）	5箇所設置	

○滞在空間の上質化

- ・ 利用者が尾瀬で快適かつ豊かな時間を過ごし、尾瀬ならではの魅力を存分に感じられるように、利用拠点の施設等の環境を整備し、滞在空間の上質化を図ります。

9. 鳩待峠の施設改築における外観整備				継続
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他	
目的と概要	鳩待山荘建替えに伴い、至仏山が眺望できるウッドデッキ等を設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	若年層～ベテラン層	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022年～2024年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（鳩待峠）		
	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2022年度	今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定		
	2023年度	【山荘】旧鳩待山荘解体工事、新鳩待山荘の基礎工事、受水槽鉄骨組立工事が完了。 【休憩所】新鳩待休憩所鉄骨組立工事が完了		
	2024年度	【山荘】新鳩待山荘建屋工事、受水槽建屋工事。 【休憩所】新鳩待休憩所建屋工事。		
目標値	期限	（いつまでに）	2024年度内に	
	項目	（何を）	ウッドデッキ等を	
	数値	（どうするか）	設置する	

10. 鳩待峠の外構における植栽整備				継続
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他	
目的と概要	鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入山口であるため、施設広場の砂利敷きに周囲の植生に合わせた植物を植栽し、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらうことで魅力向上を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	若年層～ベテラン層	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022年～2024年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（鳩待峠）		

	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。	
	2022 年度	今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定。	
	2023 年度	鳩待山荘建替工事実施中	
	2024 年度	新鳩待山荘工事と同時進行にて実施予定。	
目 標 値	期限	（いつまでに）	2024 年度内に
	項目	（何を）	周囲の植生に合わせた植物を
	数値	（どうするか）	植栽する

11. 鳩待峠の公衆無線 LAN 環境整備			継続	
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他	
目的と概要	鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。鳩待山荘建替え計画に合わせ施設内の公衆無線 LAN 環境を整備することで若年層やインバウンド利用者の利便性向上を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	若年層、インバウンド	
取 組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（鳩待峠）		
	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2022 年度	今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定。		
	2023 年度	鳩待山荘建替工事実施中		
	2024 年度	公衆無線 LAN 整備に向け通信会社との協議を行う。		
目 標 値	期限	（いつまでに）	2024 年度内に	
	項目	（何を）	公衆無線 LAN 環境を	
	数値	（どうするか）	整備する	

12. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業			継続
実施主体	片品村	連携先	環境省、地元民間事業者等
目的と概要	国立公園の利用拠点ではインバウンド対応や個人旅行など旅行ニーズの変化への対応力が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている。地元自治体が主となり環境		

	省や地元民間事業者等と協議して利用拠点計画書を策定し、それに沿って補助事業を実施する。（多言語標識や景観の阻害や危険性のある廃屋の撤去等）		
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	
取組	状況	実施中	期間 複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]	
	実施済	利用拠点計画書を策定	
	2022年度	富士見小屋（廃屋）の撤去（富士見峠地区）	
	2023年度	鳩待峠の看板整備（鳩待峠地区）（予定）	
	2024年度		
目標値	期限	（いつまでに）	
	項目	（何を）	
	数値	（どうするか）	

13. 尾瀬設備クオリティアップ事業			継続
実施主体	群馬県	連携先	
目的と概要	年齢・体力の異なる幅広い層の利用者や外国人利用者が安心、安全、快適に尾瀬を楽しめるよう、県有施設の設備整備等を行います。		
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	入山者全般（国内／国外）
取組	状況	実施中	期間 複数年（2020年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内の県有施設）	
	実施済	2021年度は、大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事を実施した。	
	2022年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事	
	2023年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事 入山口案内看板再整備（富士見峠）	
	2024年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事（予定） 入山口案内看板再整備（大清水予定）	
目標値	期限	（いつまでに）	
	項目	（何を）	
	数値	（どうするか）	

○保全活動の強化

- ・ 尾瀬の生態系を維持回復させ、尾瀬本来の姿を取り戻していくために、保全活動を行います。

14. ニホンジカによる植生被害対策				継続
実施主体	環境省	連携先	群馬県立尾瀬高等学校	
目的と概要	ニッコウキスゲを始めとする湿原植物等へのニホンジカによる植生被害対策のため、植生保護柵を設置して被害防除を行うとともに、植物の自然回復をはかる。			
主な該当戦略	リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	尾瀬来訪者全般	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬ヶ原（下ノ大堀川、竜宮等））		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生保護柵の設置及び維持管理。 ・ 植生保護柵の効果検証及び植生の回復状況を把握するためのモニタリング。 ・ 植生保護柵の設置・撤去作業を群馬県立尾瀬高等学校と共同で実施（2021年～）。 		
	2022年度	※同上取組を継続 ※設置箇所として燧ヶ岳山頂周辺を追加（福島県と共同管理）		
	2023年度	※同上取組を継続 ※設置箇所として笠ヶ岳を追加		
	2024年度	※同上取組を継続予定		
目標値	期限	（いつまでに）	毎年	
	項目	（何を）	尾瀬ヶ原（下ノ大堀川、竜宮）の植生保護柵の設置・撤去作業を	
	数値	（どうするか）	尾瀬高校と共同実施する	

(2) 滞在・周遊促進プログラム

- ・ 本取組テーマでは、モデルコース・プラン等の作成、山小屋の魅力向上、体験アクティビティの利用促進、交流イベントの開催の4区分で、計11の取組を実施します。

○モデルコース・プラン等の作成

- ・ 利用者自身の目的や関心、体力等に応じてコースを選択肢し、尾瀬ならではの多様な魅力を体感・体験できるよう、周遊利用や滞在利用のモデルコース・プランを提示します。

15. シャトルタクシープラン（最寄り駅から登山口までの送迎）				継続
実施主体	みなみあいづ観光 (株式会社みなみあいづ)	連携先	0241-62-2250	
目的と概要	尾瀬国立公園内の田代山、帝釈山へは直通のバス等がないため、電車等でお越しいただくお客様のために予約制のシャトルタクシーを配車し、利便性の向上を図っています。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内の猿倉登山口、馬坂登山口）		
	実施済	電車等でお越しいただくお客様のために予約制のシャトルタクシーを配車しております。		
	2022年度	合計利用実績 124件 277名		
	2023年度	合計利用見込 131件 298名		
	2024年度	継続予定		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

16. 会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業				継続
実施主体	桧枝岐村	連携先	尾瀬桧枝岐温泉観光協会	
目的と概要	福島県檜枝岐村と群馬県片品村を結ぶ唯一の古道「会津沼田街道」（群馬県片品村戸倉（大清水）～福島県檜枝岐村七入）は、江戸時代から交易路として利用されていた。これまであまり知られてこなかった街道の魅力を発信し、少しでも尾瀬の滞在者を増加させると共に、村内宿泊施設利用者を増加させることを目的とする。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～2023年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内（会津沼田街道））、		

		情報媒体（WEB：尾瀬檜枝岐温泉観光協会の SNS（YouTube 等）			
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（初夏 Ver.）を制作し、YouTube 等で情報発信を行った。 ・ 街道でのモニターツアー（夏と初秋）を実施し、結果を分析した。 			
	2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（秋 Ver.）を制作し、YouTube 等で情報発信を行った。 			
	2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年間制作した動画を再編集し、YouTube 等で配信事業を行う。 ・ 2 年間制作した動画情報等を基に、街道の魅力を十分に盛り込んだコンセプトブックを片品村と共同で制作する。 ・ 街道の魅力に特化したランディングページを作成する。 			
	2024 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内板整備の実施。インバウンドへの対応。 			
目 標 値	期限	（いつまでに）	2023 年	2023 年	2023 年
	項目	（何を）	YouTube 視聴回数	七入地区設置カウ ンター数	村内宿泊者数
	数値	（どうするか）	300,000 回	2,500 人	19,000 人

17. 尾瀬国立公園のモデルコースと体験アクティビティの紹介					継続
実施主体	環境省	連携先	尾瀬ガイド事業者		
目的と概要	尾瀬国立公園を満喫するための、モデルコースやツアーについて、「尾瀬国立公園コンテンツ集」やビジターセンターの展示物としてとりまとめて紹介する。				
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内・海外、尾瀬未経験者（特に登山等の経験が浅い利用者）		
取 組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）	
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、尾瀬外、情報媒体（Web）			
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尾瀬沼ビジターセンターにガイド事業者紹介パネルを作成・設置 ・ 尾瀬国立公園コンテンツ集（2021-2022 年版）の作成と配布。 ・ 同様にツーリズム EXPO 等で国内外の商談会に資料として利用。 ・ 環境省尾瀬国立公園のウェブサイトに掲載。 			
	2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尾瀬国立公園コンテンツ集をツーリズム EXPO 等で配布済。 ・ 同コンテンツ集を「環境省_尾瀬国立公園」サイトに掲載済。 			
	2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尾瀬国立公園コンテンツ集（2023-2024 年版）の作成（ウェブ版のみ）。 ・ 同コンテンツ集を「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載。 ・ ツーリズムエキスポ in 大阪にて、尾瀬認定ガイドによる体験コンテンツを紹介。 			
	2024 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尾瀬国立公園コンテンツ集（2024-2025 年版）を作成予定（ウェブ版のみ）。 ・ 同コンテンツ集を「国立公園に行ってみよう！」サイトに掲載予定。 			

		・ ツーリズムエキスポなどの旅行博やイベント等において、尾瀬認定ガイドによる体験コンテンツを紹介予定。		
目 標 値	期限	(いつまでに)	2022年6月までに	毎年年度末までに
	項目	(何を)	魅力的なコンテンツやツアーについて	尾瀬国立公園コンテンツ集を
	数値	(どうするか)	12個のコンテンツをツアー事業者と連携して取りまとめる【済】	ウェブ版として取りまとめ、「国立公園に行ってみようサイト」へ掲載する

○山小屋の魅力向上

- ・ 尾瀬の利用拠点となる山小屋において、利用者が快適に過ごせるよう、施設（食堂利用や売店、休憩所等）の改修やサービス形態等の変革を進めるとともに、各小屋の個性やウリ、提供するサービスの充実を図ります。

18. 宿泊者に対するスライドショー				継続
実施主体	尾瀬山小屋組合	連携先	① 一部山小屋 ② 全山小屋	
目的と概要	宿泊者に対し座学として尾瀬の歴史や風景等を、スライドを使用し説明。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、ファン戦略、リピーター戦略	ターゲット	宿泊するお客さま	
取 組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（オープンスペース他）		
	実施済	尾瀬の風景写真等を活用して更なる尾瀬の魅力を宿泊されたお客様にお伝えしていく。		
	2022年度	①山小屋でのスライドショーや支配人・従業員による解説を実施しお客様から喜ばれた。		
	2023年度	②サステナ事業として、 ・ 山小屋滞在コンセプトの実施を計画・モニターツアー実施 ・ 山小屋ポータルサイトの新設 ・ 山小屋紹介冊子の制作		
2024年度	②サステナ事業として、 ・ 山小屋滞在コンセプトの本格実施 ・ 山小屋ポータルサイトの継続 ・ 山小屋紹介冊子の設置			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

19. 客室の改修				継続
実施主体	尾瀬沼ヒュッテ	連携先	080-5734-7272	
目的と概要	カプセル型ユニットを導入し、お一人様の受け入れを図っている。 コロナ禍以降、お客様の状況、ニーズは大きく変化していてそれに対応しながらの営業を心掛けたい。少しずつお客様の入りも多くなってきているが、従業員スタッフが少なく稼働しきれていない部分がある。土日祝祭日に宿泊が集中しており、平日分散化を図る観点から平日料金を導入している。			
主な該当戦略		ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼ヒュッテ）		
	実施済			
	2022年度	カプセル型ユニットの運用と今度の改修の検討		
	2023年度			
	2024年度	客室の床替え等の改修		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

20. B&B スタイルの宿泊施設へと転換				継続
実施主体	尾瀬沼ヒュッテ	連携先	080-5734-7272	
目的と概要	<p>022年度より新たにB&Bスタイルの宿泊施設へと転換を図り運営していく予定である（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020～2021年度まで休館）。</p> <p>B&Bへ変更する理由としては、現在尾瀬を含め、北アルプスなどの大半の山小屋では1万円を切る宿泊施設が存在しなくなっている。加えて、登山者を取り巻く状況は、給与が上がらず物価上昇を招くいわゆるデフレ現象が発生している。更に登山者の多くは年金受給者であり、1泊1万円以上の山小屋に宿泊したくてもできない状況が垣間見られ、今後益々山小屋の経営状況は厳しくなると予想される。このような状況から、安価に宿泊できゆったりと尾瀬の四季の魅力を堪能できる機会を設けること、そして、お客様により多くの選択肢を与え、より多くの方々に尾瀬に足を向けていただくことが必要と考える。また新型コロナウイルスの影響によりアルバイトの応募が少なくなり、経営に支障を来している状況にある。宿泊施設で最も人手を必要とするのが食事であり、夕食をなくし、朝食を軽朝食にすることで人手が軽減できるようになる。</p>			

		これまでの旅行形態としては、非日常的な雰囲気の中で贅沢をするという概念が一般的であったと思われるが、『贅沢』を『セルフ』に代えることで安価で個々の楽しみが増えることへと繋がり、新たな山の旅行スタイルへと転換できるものと期待する。		
主な該当戦略			ターゲット	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼ロッジ）		
	実施済			
	2022年度	B&Bスタイルの宿泊施設へと転換		
	2023年度	B&Bスタイルの宿泊施設として運営		
	2024年度	未定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

21. 食事の充実と部屋の個室利用				継続
実施主体	山の鼻小屋	連携先		
目的と概要	お客様に快適に過ごしていただくために、食事の充実と個室利用をしていただくことで、コロナの時代でも安心して利用してもらい、リピーターを増やす。 お客様に対して丁寧な対応を心掛ける。			
主な該当戦略		ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼ヒュッテ）		
	実施済			
	2022年度	調査結果（入山者アンケート）から尾瀬そのものがどのような所なのか特に不便なことなどがまだまだ知られていないことに気付いた。この事がお客様の不満につながっていると考える。これらをふまえて、まず尾瀬の魅力を周知するとともに、尾瀬の不便さ、山小屋の不便さも広く周知する必要があると考える。 安心を得るためにSNSやホームページでの細かな配信などを利用し新しいお客様の獲得を図り継続して快適性も追求する		
	2023年度			
	2024年度			
	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		

目標値	数値	(どうするか)		
-----	----	---------	--	--

○体験アクティビティの利用促進

- ・ 尾瀬ならではの魅力を体験を通じて感じ取ってもらうために、ガイドやインタープリターが提供する体験アクティビティのメニューの充実を図ります。

22. 片品村内で e-bike ツアー				継続
実施主体	NPO 法人片品・山と森の学校		連携先	
目的と概要	尾瀬国立公園は日帰りの利用客が多い。そこで、尾瀬国立公園の麓である片品村でのお客様の滞在時間を増やすため、村内を周遊する e-bike ツアーを造成する。このツアーを造成することで、日帰りではなく宿に泊まって尾瀬を楽しむことで、地域の経済が活性化されることを目指す。			
主な該当戦略		ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～2023 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（群馬県利根郡片品村）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-bike を購入し、ツアーのモデルコースを策定した。 ・ 片品村での e-bike ツアーを紹介する、インバウンド向けのオンラインツアーを実施した。 		
	2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-bike のテストツアーを施工販売する。 ・ 新しい e-bike ツアーのコースを作る。 		
	2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 年度に実施したテストツアーの結果を分析し、ツアーを複数回実施する。 		
	2024 年度			
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

23. 星空観察会の定期開催				継続
実施主体	尾瀬沼ビジターセンター （環境省からの受託事業）		連携先	
目的と概要	尾瀬シーズン中の 6～10 月、週末・祝日の前後の夜を中心に星空観察会を開催。星座解説等を行うことによって利用者満足度を向上し、宿泊者限定のコンテンツで尾瀬の魅力をアピールする。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2017 年～2021 年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬沼ビジターセンター（内・周辺））		
	実施済	尾瀬シーズン中の 6～10 月に定期的に複数回の星空観察会を実施した。（無料）		

	2022 年度	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を実施予定（尾瀬沼ビジターセンター運営業務を受託した場合）		
	2023 年度	同上		
	2024 年度	同上		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○交流イベントの開催

- ・ 尾瀬の自然環境を活かして尾瀬の自然・歴史・文化を伝え、交流するイベントを開催する。

24. 山・音楽・食・地元文化をミックスしたイベントの開催				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	下記参照	
目的と概要	<p>国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場を活用し、アーティストや著名人・YouTuber・山小屋・アウトドアメーカー・地元商店や行政機関などを誘致し、影響力ある人たちの力を借りながら、国立公園の魅力や地元地域の伝統文化PRを目的としたイベントを開催。新型コロナウイルスにより影響を受けた地元観光業・宿泊事業所の入客斡旋も兼ね添える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の名産物だけでなく、協賛企業のキッチンカーを誘致し、地元の方々にも全国の食の楽しみを味わって頂けるようなグルメブースを設置する。 ・ アウトドアメーカーに参画頂き、テント泊が体験出来るプランの設置、登山装備の講習や歩行指導などが体験出来る参加型ブースも設置。 ・ 環境省及び国立公園のレンジャーや、保全団体・ボランティア団体にも参画頂き、国立公園の植生保護やゴミ問題、その他国立公園が抱える、様々な課題や問題点を来場者に直接伝える事ができる場所を提案。 ・ 収益の一部を国立公園や自然保護・地元行政などの活動費用に還元出来る仕組みとする。星座解説等を行うことによって利用者満足度を向上し、宿泊者限定のコンテンツで尾瀬の魅力をアピールする。 ・ 収益の一部を国立公園や自然保護・地元行政などの活動費用に還元出来る仕組みとする。 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット		
取 組	状況	今後実施予定	期間	
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場）		
	実施済			

	2022 年度	関係者との調整、イベントの開催		
	2023 年度	<p>■アウトドアメーカーtetonbros との尾瀬コラボ商品の開発とリリース。尾瀬でしか手に入らない限定商品をリリースする事により、購入を目的とした入山動機の開拓に寄与。収益の一部を檜枝岐村ガイドに寄付。</p> <p>■登山ユーチューバーかほさん、もじゃまるさん、山広さん、カブパパさんなどが尾瀬訪問。尾瀬国立公園のPRに寄与。誘致したYoutuberによる動画総再生数は25万回以上。</p> <p>■新宿御苑にて尾瀬国立公園、中部山岳国立公園の共同イベントを開催。キッチンカーにて尾瀬小屋グルメを提供。</p>		
	2024 年度	<p>■檜枝岐村の雪まつりなど地元のイベントにサッカー選手を招致予定。</p> <p>■新宿御苑にて国立公園の食イベントを計画。</p>		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

25. アウトドア好きな人々の交流創出				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要	<p>同じ趣味同士だから発展率も高く、大自然の中に身を置く事で、非日常的なロケーションから開放的な気持ちになる。また、普通の街コンとは違い『登山やアウトドアが好き』という共通の話題がある事で、自然と心の距離は近くなるものと考えられる。</p> <p>そこで、出会うだけではなく『国立公園』をもっと好きになり、やがては思い出の場所として、何度も訪れて貰える様な場所として本企画を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社の尾瀬小屋はもちろん、全国の国立公園の宿泊地を使用する事で、地域も限定されず気軽に参加可能。また地域毎の特色を活かした、伝統や文化、歴史などを感じる事で利用した地域に愛着を持って頂く事を目標とする。 ・尾瀬においては高低差もほとんどない為、初心者でも気軽に参加が可能。また、山小屋を利用する事で、最低限の荷物で参加が可能。かつ国立公園内での滞在時間を長める事が可能。 ・ターゲットは老若男女問わず受け入れる事が出来ます。企画催行は、年齢層別に組む事で汎用出来、参加人数やイベント規模に応じて、観光バス、マイクロバス、ハイエース車両など全ての車両で登山口までアプローチが可能。 ・空室の多い期間の売上補強になりうる案件でもあり、国立公園の宿泊事業者との相乗効果も見込まれる。 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	20代～30代男女	
状況	今後実施予定	期間		

取組	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済			
	2022 年度	関係者との調整、イベントの開催		
	2023 年度			
	2024 年度			
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

(3) 魅力的プロモーション実施プログラム

- ・ 本取組テーマでは、尾瀬のイメージの発信、Web ページ、SNS の活用、外部企業・人材との連携による PR の 3 区分で、計 19 の取組を実施します。

○尾瀬のイメージの発信

- ・ 尾瀬の多様な魅力、楽しみ方等について利用者向けに情報発信を行います。

26. グルメを通じた国立公園の魅力発信				継続
実施主体	尾瀬小屋		連携先	
目的と概要	<p>尾瀬小屋は「食べる」というアクションを通して、国立公園の魅力や課題を発信していく取り組みをしている。</p> <p>【魅力発信】：「山でこんなご馳走が食べられるの？」そんな驚きと感動の料理 を低価格で楽しめる世界を国立公園内に 実現させた。また、地元の食材を料理に取り入れる事で、国立公園に隣接する地元の魅力発信の役割も兼ね備えている。</p> <p>【課題発信】：尾瀬の山小屋への物資輸送は、ヘリコプターか歩荷（ポッカ）と呼ばれる人力輸送のみとなる。しかし、相次ぐヘリコプター会社の山岳輸送撤退や若手のパイロット不足、運搬費用の高騰、歩荷さんの存続危機など、深刻な課題に直面している。そうした課題を食べ物を通して利用者を知ってもらい、一人一人が出来る事を考える事で、国立公園の持続可能な社会にする事を目標としている。</p> <p>【地域密着】尾瀬周辺地域は豊富な水に恵まれ、有名な酒造が点在する。2022 年は食材だけでなく、料理に合わせ美味しい地元のお酒を国立公園で味わい、更なる付加価値と非日常体験を造成する。</p> <p>【経済貢献】地元の酒造様と提携し、尾瀬国立公園オリジナルブランドもしくは希少性の高いお酒を提供いただき、体験価値を高めていただく。商品提供を頂いた返礼に、上記商品の売上は地元の酒造様に 100%返還とさせていただきます。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	20 代～30 代男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬小屋）、 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済			
	2022 年度	魅力に加えて、課題を利用者を知ってもらうための方法を検討し、実践する。		
	2023 年度	<p>■尾瀬グルメを新たに 20 品開発。レストラン利用は 5 ヶ月で 1 万人程度。</p> <p>■群馬県川場村の土田酒造と協業し、尾瀬で地酒を提供。ゴミを輩出しない特注容器をオリジナルで作成し、地産地消を目的とした取り組みを実施。</p>		

		■物資輸送の未来を再考すべく、川崎重工業様を尾瀬見晴へリポート視察誘致。協業を模索		
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

27. 片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口での PR 活動事業				協議中
実施主体	一般社団法人片品村観光協会	連携先		
目的と概要	各登山口にて協同 PR 活動を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット		
取 組	状況	今後実施予定	期間	単年（2022 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（各登山口）		
	実施済	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を実施した。（無料）		
	2022 年度	概要内容を本年度実施。		
	2023 年度	協議中		
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

28. Instagram キャンペーン（フォトコンテスト）				継続
実施主体	（公財）尾瀬保護財団	連携先	（公財）尾瀬保護財団	
目的と概要	SNS を通じた尾瀬の認知拡大を図るため、四季折々の尾瀬の風景、尾瀬で出会った動植物、尾瀬で過ごす人々を捉えた写真を対象として、SNS 投稿キャンペーン（コンテスト）を行う。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内、若者、カメラ	
取 組	状況	実施中	期間	複数年（2022～2023 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、情報媒体（Instagram 及び財団 HP）		
	実施済	企画内容検討		
	2022 年度	シーズンを通じて尾瀬の Instagram 写真投稿を募集し、優れた作品を選出してホームページ等で発表する。選考は季節ごとに行い、四季折々の尾瀬の魅力を PR する。		

	2023 年度	尾瀬の写真の Instagram 投稿を呼びかけ、季節、テーマ別で優れた写真を選出して発表し、四季折々の尾瀬の魅力を PR する。		
	2024 年度	未定		
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

29. スタートアップふくしま尾瀬事業（情報発信事業）				完了
実施主体	福島県		連携先	環境省、福島県檜枝岐村、南会津町
目的と概要	福島県側の尾瀬とその玄関口となる檜枝岐村や南会津町の自然の素晴らしさや歴史、文化などの魅力を県内外に情報発信し、幅広い層に「ふくしま尾瀬」を拡散する。 「ふくしま尾瀬」の魅力を様々な切り口で丁寧に取材し、コラム記事や動画を作成、Web や SNS を活用して情報発信を行う。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット		
取 組	状況	完了	期間	複数年（2020 年～2021 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020 年度は、現地取材を基に自然や歴史、山小屋など「ふくしま尾瀬」ならではの魅力について、コラム記事や動画を作成し、Web、SNS 等により配信。 ・ 令和 3 年は、前年の取組に加え、テレビや Web での CM 配信や、ふくしま尾瀬のアフターコロナを見据えたインバウンド対応（英語化）を行うなど、情報発信の強化を行う。 		
	2022 年度			
	2023 年度			
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

30. ふくしま尾瀬魅力発信強化事業				継続
実施主体	福島県		連携先	環境省、檜枝岐村及び南会津町
目的と概要	ふくしま尾瀬の魅力等を年間を通して情報発信するほか尾瀬での自然体験ツアーやフォトコンテストを開催し、「ふくしま尾瀬」に訪れるきっかけを創出する。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット		

取組	状況	今後実施予定	期間	単年（2022年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、 情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS 及び特設 Web）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度は、現地取材を基に自然や歴史、山小屋など「ふくしま尾瀬」ならではの魅力について、コラム記事や動画を作成し、Web、SNS 等により配信。 ・令和3年は、前年の取組に加え、テレビや Web での CM 配信や、ふくしま尾瀬のアフターコロナを見据えたインバウンド対応（英語化）を行うなど、情報発信の強化を行う。 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬での自然体験をメインとした著名人やガイドが案内するメディアツアーやプロカメラマン等が案内するフォトツアーを実施する。 ・ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、入賞作品の公共施設等での展示等を行う。 ・既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の最新情報を発信する。 		
	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬での自然体験をメインとした著名人やガイドが案内する親子自然体験ツアーや YouTuber や動画クリエイター等が案内する動画撮影教室ツアーを実施する。 ・ふくしま尾瀬フォト&ムービーコンテストを開催し、入賞作品を公共施設等で展示する。 ・既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の最新情報を発信する。 		
2024年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、過去2年分を含めた入賞作品を公共施設等で展示する。 ・既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の最新情報を発信する。 			
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○Web ページ、SNS の活用

- ・ 尾瀬の多様な魅力、旬な情報を提供するために Web ページ、SNS の有効活用を図ります。

31. SNS を活用した魅力発信				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要	尾瀬小屋の SNS は、2021 年より運用開始。営業開始から営業終了までの僅か5ヶ月で、多くのファンを獲得に成功。特に写真を多用して「尾瀬の今」を発信。文字よりも、説明よりも、写真で伝える事にこだわって配信を心掛けている。また、魅力だけでなく、冬期の小屋管理の大変さや山小屋が抱える課題なども率先して発信している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	20代～50代男女	
状況	実施中	期間	複数年（2021年～）	

取組	場所	情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	2021 年より尾瀬小屋 SNS を運用開始		
	2022 年度	引き続き、「尾瀬の今」を尾瀬小屋 SNS で発信		
	2023 年度	■SNS の総フォロワー3 万人を達成。目標 2 万人を大きく超えた。		
	2024 年度			
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

32. 南会津町観光物産協会情報発信事業				継続
実施主体	南会津町観光物産協会（館岩支部）	連携先		
目的と概要	<p>①田代山、帝釈山の魅力を登山者に伝えるため、南会津町観光物産協会のホームページ又は、SNS アカウント（Facebook、Instagram、Twitter）を活用して情報発信を行う。具体的には、花の様子、交通情報、イベント情報などを発信し、知名度向上、魅力向上を図っている。</p> <p>②①の内容を南会津町館岩地域の観光施設、道の駅などに情報提供（FAX）を行い、各施設で情報が取得できるようにしている。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、登山が趣味の方	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	情報媒体（南会津町観光物産協会の SNS アカウント）		
	実施済	SNS は、週 1～2 回を目安に情報発信ができるように努めている（6 月～10 月）		
	2022 年度	引き続き、「尾瀬の今」を尾瀬小屋 SNS で発信		
	2023 年度	継続実施		
	2024 年度	継続実施		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

33. 魚沼市観光協会情報発信事業				新規
実施主体	（一社）魚沼市観光協会	連携先		
目的と概要	①船とバスで行く魚沼ルートを尾瀬登山者に紹介するため、（一社）魚沼市観光協会のホームページ又は SNS アカウント（Facebook、Instagram、X）を活用して情報発信を行う。			

	具体的には、花の様子、交通情報、イベント情報などを発信し、知名度向上を図っている。 ②①の内容を南会津町館岩地域の観光施設、道の駅などに情報提供（FAX）を行い、各施設で情報が取得できるようにしている。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内、登山が趣味の方（個人、グループ、団体）	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	情報媒体（魚沼市観光協会のホームページ、SNS アカウント）		
	実施済	SNS は、週 1～2 回を目安に情報発信ができるように努めている（6月～10月）		
	2022 年度	-		
	2023 年度	船とバスで行く魚沼ルートを魚沼市観光協会のホームページ、SNS アカウントを活用して情報発信する。		
2024 年度	継続実施			
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

34. 個人客獲得のための Web ページの改善				継続
実施主体	NPO 法人片品・山と森の学校	連携先		
目的と概要	当団体で実施している尾瀬ツアーの予約数増加のため、主に Web ページの改善を行う。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、登山が趣味の方	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～2022 年）
	場所	情報媒体（NPO 法人片品・山と森の学校の Web ページ）		
	実施済	Google の検索に入るようなキーワードをページ内に埋め込む。 ・ Web ページが閲覧者の PC やスマホ上で速やかに読み込めるよう、データ容量の軽量化を図る。 ・ Web ページの閲覧数や流入経路の分析。 ・ ツアー予約への誘導のための工夫を施す。		
	2022 年度	2021 年中に行ってきた Web ページの解析結果を分析し、改善点を洗い出す。洗い出した改善点を逐次実施する。		
	2023 年度	継続実施		
2024 年度	継続実施			
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年度末までに	2022 年度末までに
	項目	（何を）	Google 上の検索キーワード「尾瀬」と「ガイド」で	Web ページの訪問者がツアーの予約まで結びつく数を

数値	(どうするか)	検索 1 位～2 位を目指す。 ※2022 年 11 月現在で 1 位	昨年度中から 15%増を目指す
----	---------	--	-----------------

35. Instagram (尾瀬公式アカウント) の活用				継続	
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先			
目的と概要	関係機関や公園利用者等を広く巻き込みながら、「みんな」で(まだ知られていない)尾瀬の多様な魅力を発信することで、尾瀬の認知度を高めるとともに魅力あふれる尾瀬を国内外に発信する目的で、令和元年度から「尾瀬公式 Instagram アカウント」を運用している。写真・記事の投稿の他、指定ハッシュタグ「#discoveroze」を付けた外部の投稿を再投稿している。				
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内、若者		
取組	状況	実施中	期間	複数年(2019年～)	
	場所	情報媒体 (Instagram 及び財団 HP トップページへの埋め込み)			
	実施済	次の情報等を不定期で発信する。 ・尾瀬の魅力を伝える記事、写真並びにこれに付随する情報 ・尾瀬で行われる取組 その他、指定ハッシュタグの付いた外部の投稿を選定して、再投稿している。			
	2022 年度	継続実施			
	2023 年度	同上			
	2024 年度	同上			
目標値	期限	(いつまでに)			
	項目	(何を)			
	数値	(どうするか)			

36. 片品村むらづくり観光課公式ユーチューブ 動画配信				継続	
実施主体	片品村	連携先			
目的と概要	尾瀬を含む片品村の状況を伝えるために、職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信する。				
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット			
取組	状況	実施中	期間	複数年(2019年～)	
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、情報媒体 (YouTube)			
	実施済	2021 年 4 月に片品村むらづくり観光課公式 YouTube を開設した。 職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信している (21 本)。			
	2022 年度	季節ごとに尾瀬に入りその状況を動画撮影し配信。(5月～10月)			

	2023 年度	同上予定		
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○外部企業・人材との連携による PR

- ・ 尾瀬の魅力を潜在利用者等に届けるために、外部企業・人材と連携して PR を行います。

37. ポストコロナインバウンド誘客事業				継続
実施主体	一般社団法人片品村観光協会	連携先		
目的と概要	<p>訪日外国人旅行者誘客による地域経済の活性化を図るため、認知度と、来訪意欲向上に向けた取り組みを進める。本事業では、「海外メディアの活用」、「インフルエンサーの招聘」「現地観光セミナー」を通じて、尾瀬をはじめとする本村の観光資源の魅力を海外（オーストラリア・台湾）に向けて発信するとともに、「外国人アドバイザーの招聘」を実施することで、観光資源の磨き上げを図る。</p> <p>①台湾看板広告：台湾 JTB とタイアップし、現地旅行番組等で尾瀬の紹介並びに台湾地下鉄駅看板展開を図る。</p> <p>②インフルエンサー招聘：海外インフルエンサー（ブロガー、Youtuber）を招聘及び商談会</p> <p>③外国人アドバイザー招聘：片品村の観光コンテンツをより魅力的なものとするため、外国人アドバイザーから、改善点等を抽出します。</p> <p>① 台湾 ITF 参加：台湾世界旅行博出展。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略 ファン戦略	ターゲット		
取 組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022～2023 年）
	場所	尾瀬外（村内、台湾）、情報媒体（Web）		
	実施済	2021 年 4 月に片品村むらづくり観光課公式 YouTube を開設した。 職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信している（21 本）。		
	2022 年度	概要内容を本年度実施。		
	2023 年度	2023 年度も継続実施		
	2024 年度			
	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		

目 標 値	数値	(どうするか)		
-------------	----	---------	--	--

38. 人気 YouTuber と連携した尾瀬の魅力広報				完了
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先		
目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「かほの登山日記」の人気 YouTuber かほさんに尾瀬登山（燧ヶ岳・至仏山）、動画撮影を依頼。 ・10代～30代に使用されている割合が大きい SNS の1つ、YouTube での動画配信によって、若者世代の尾瀬への興味・関心を高め、また登山マナーについても訴求する。」 ・撮影された動画をイベント時やビジターセンターで公開することも検討中。 			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、若者、登山	
取組	状況	実施済み (2022 年)	期間	複数年 (2019 年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺] (山ノ鼻 VC、尾瀬沼 VC)、尾瀬外 (広報イベント) 情報媒体 (YouTube、尾瀬保護財団ウェブサイト)		
	実施済			
	2022 年度			
	2023 年度			
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

39. モンベル会員雑誌 フレンドエリアの登録				協議中
実施主体	片品村	連携先		
目的と概要	誘客を目的として、モンベルフレンドエリアに片品村の観光情報を掲載する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年 (2021 年～)
	場所	情報媒体 (モンベル Web ページ及び雑誌)		
	実施済	2021 年 12 月以降、Web や雑誌に尾瀬の情報が掲載。		
	2022 年度	モンベルの web や情報雑誌に尾瀬の情報を掲載。		
	2023 年度	検討中		
	2024 年度			

目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

40. 著名人とのタイアップによるプロモーション					完了
実施主体	環境省		連携先	片品村観光協会、 尾瀬檜枝岐温泉観光協会	
目的と概要	尾瀬国立公園の認知度向上を図り、潜在層への PR を目的に、著名人とのタイアップによるプロモーションを行う				
主な該当戦略	ビギナー戦略		ターゲット	国内外、柴咲コウさんのファン層	
取 組	状況	実施中		期間	単年（2021 年）
	場所	情報媒体（Web：柴咲コウ「レトログラス」YouTube チャンネル）			
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省の環境特別広報大使である柴咲コウとタイアップし、尾瀬国立公園の美しい自然を、柴咲コウの楽曲に乗せた動画を作成（2021 年 6～8 月）。 ・PR 効果を高めるため、柴咲コウ「レトログラス」YouTube チャンネルで尾瀬の日に配信開始（2021 年 8 月 30 日）。（2021 年度で事業終了） 			
	2022 年度				
	2023 年度				
	2024 年度				
目 標 値	期限	(いつまでに)	2021 年 10 月までに		
	項目	(何を)	動画再生回数を		
	数値	(どうするか)	2 万再生する（達成済） ※2022 年 10 月末で 3.9 万再生		

41. 尾瀬歩荷の魅力発信事業					新規
実施主体	尾瀬小屋		連携先		
目的と概要					
主な該当戦略	ファン戦略		ターゲット	30 代～50 代男女	
取 組	状況			期間	
	場所				
	実施済				
	2022 年度				

	2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ■5月～10月の5ヶ月間で、200枚程度の歩荷さんの写真を撮影し、SNSにて投稿。 ■小屋の売店ブースに歩荷さんの写真パネルを展示。 ■歩荷さんに売上収益の一部、6万円を寄付。 		
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

42. サッカー業界への尾瀬の発信				新規
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要				
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	20代～30代男女	
取 組	状況		期間	
	場所			
	実施済			
	2022 年度			
	2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ■2023年3月檜枝岐村小学校にて川崎フロンターレ応援交流会を開催。川崎フロンターレの選手よりビデオレターや応援グッズを贈呈。 ■2023年8月檜枝岐村民約40名を川崎フロンターレのホームスタジアム等々力競技場へ招待。選手交流や試合観戦、バックヤードツアーに参加。川崎と檜枝岐村に架け橋を作る。 ■2023年9月株式会社フロンターレの社長含む役員が尾瀬を学ぶため、尾瀬見晴へと宿泊訪問。2024年のサッカーと登山の更なる協業の可能性を模索。 		
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

43. 陸前高田市との連携事業				新規
実施主体	尾瀬小屋	連携先	陸前高田市	
目的と概要	機会拡大			
主な該当戦略	ファン戦略、リピーター戦略	ターゲット	30代～50代男女	
	状況		期間	

取組	場所			
	実施済			
	2022 年度			
	2023 年度	■弊社と復興支援の関係性があり、三陸復興国立公園だけでなく、尾瀬の国立公園を見てもらい学びの場の機会を提供する予定です。		
	2024 年度			
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

44. マルコメとの連携による新潟からの魅力発信				新規
実施主体	尾瀬小屋	連携先	株式会社マルコメ	
目的と概要	魚沼と尾瀬の連携			
主な該当戦略	ファン戦略、リピーター戦略	ターゲット		
取組	状況		期間	
	場所			
	実施済			
	2022 年度			
	2023 年度	■魚沼を代表する企業でもある株式会社マルコメ様と連携を図り、新潟からの尾瀬の魅力を訴求していく予定です。		
	2024 年度			
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

(4) 尾瀬ファン創出プログラム

- ・ 本取組テーマでは、環境保全に資する行動の普及、啓発、ボランティア活動の充実、尾瀬ファンとの交流の3区分で、計5の取組を実施します。

○環境保全に資する行動の普及、啓発

- ・ 尾瀬に来訪する利用者に環境保全に資する行動を取ってもらうために、入山時の注意やマナー等の普及、啓発を行います。

45. 至仏山の登山マナー啓発				継続
実施主体	至仏山保全対策会議		連携先	
目的と概要	<p>至仏山登山者のマナーアップを図るため、至仏山マナーマップを作成してビジターセンターなどで配布するとともに、尾瀬保護財団のウェブサイトにも情報を掲載して啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールデンウィーク中までの残雪期における入山についての注意事項周知 ・ 植生保護のための登山道閉鎖期間の設定（ゴールデンウィーク後～6月末まで） ・ 東面登山道の登り専用利用の徹底 ・ 携帯トイレの携行励行 ・ ストックキャップの使用励行 など 			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内外	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（山ノ鼻 VC、尾瀬沼 VC）、情報媒体（尾瀬保護財団ウェブサイト）		
	実施済	今後も継続して啓発していく。		
	2022 年度	同上		
	2023 年度	継続して啓発を実施		
	2024 年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

46. 財団 HP での情報提供・普及啓発				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	
目的と概要	尾瀬の魅力等の発信、入山時の注意やマナーを啓発する為に、財団のホームページや SNS で下記の情報を発信している。また、問合せ電話番号やメールアドレスを公開するとともに			

		<p>に、尾瀬に関する情報提供を事務局とビジターセンター（シーズン中）で行っている。ビジターセンターでは、来館者対応やイベント等を通して情報提供、普及啓発を行っている。</p> <p>■ホームページ、SNS</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路情報やアクセス情報、ルール・マナー等、尾瀬を訪問する際に必要な情報 ・尾瀬の歴史や取組等の尾瀬の知識を深める為の情報 ・シーズン中の現地情報等 <p>■ビジターセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者対応、日中や夜間のイベントを通じた尾瀬の価値、注意のレクチャー ・尾瀬関係者と連携した尾瀬の理解を深める展示・イベント <p>（福島県尾瀬保護調査会での調査活動（展示、観察会等の実施）など）</p>		
主な該当戦略		ビギナー戦略	ターゲット	国内
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（ビジターセンター）、尾瀬外（尾瀬保護財団事務局）、情報媒体（尾瀬保護財団 HP、SNS）		
	実施済	HP、SNS、電話での情報提供、ビジターセンターイベントを通じた啓発		
	2022 年度	同上		
	2023 年度	同上		
	2024 年度	同上		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

○ボランティア活動の充実

- ・ かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、次代に引き継いでいくために、利用者が保全活動に関われるプログラムや仕組みを充実させます。

47. 尾瀬ボランティア活動支援				継続
実施主体	（公財）尾瀬保護財団	連携先		
目的と概要	<p>財団が組織する尾瀬ボランティアの活動を支援する。</p> <p>木道栈木打ち、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃、入山口啓発、定点解説、ボランティアガイド「尾瀬自然解説ガイド」など、入山マナー啓発や保護に関する取組を行っている。</p>			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	国内	
状況	実施中	期間	複数年	

取組	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	移入植物駆除、シカ柵撤去、巡回清掃		
	2022年度	同上		
	2023年度	入山口啓発、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃		
	2024年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

48. 企業ボランティア活動支援				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先		
目的と概要	巡回清掃、自治体等が整備するシカ柵の設置・撤去などに際し、企業からボランティア参加者を募っている。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、ファン戦略	ターゲット	国内	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	巡回清掃、シカ柵撤去作業		
	2022年度			
	2023年度	同上		
	2024年度	同上		
目標値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○尾瀬ファンとの交流

- ・ 尾瀬関係者が尾瀬の価値を見なおし、再認識する機会として尾瀬ファンとの交流の場を設けます。

49. 尾瀬ファンとの交流				完了
実施主体	環境省	連携先	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
目的と概要	尾瀬国立公園はリピート率や利用者満足度の高い公園であり、利用者ニーズの把握に向けた取り組みが実施され始めているが、山小屋やガイド以外の関係者が利用者と交流して意			

	見交換を行う場が少なかった。そうした背景をもとに、これからの「みんなの尾瀬」を作っていくために、利用者との交流の場を設ける。			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	尾瀬の課題を認知しているものの地域関係者とのコネクションがなかったヘビーリピーター	
取組	状況	実施中	期間	単年（2021年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（片品村役場会議室）		
	実施済	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会を対象において、尾瀬ファンとの交流会を開催して、ファンたちとの交流を図った。（2021年度で事業終了）		
	2022年度			
	2023年度			
	2024年度			
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

(5) シビックプライド形成プログラム

- 本取組テーマでは、尾瀬での共同作業の実施、尾瀬を学ぶ場の機会の充実に関する取組の2区分で、計7の取組を実施します。

○尾瀬での共同作業の実施

- 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

50. 移入植物の駆除（オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシ）				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先	尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、群馬県、片品村、環境省、会津森林管理署南会津支署など	
目的と概要	<p>特別保護地区を取り囲むエリアでは、車道沿いにおいて生態系に被害を及ぼすおそれのある移入植物の生育が確認されており、その対策を進める必要があることから、関係機関との連携のもと、特別保護地区を取り囲む登山口へ接続する車道沿いにおいて水際での侵入防止対策を行うことを目的とする。</p> <p>具体的な種としては、オオハンゴンソウ及びハルザキヤマガラシについて対応を行う。</p>			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	尾瀬関係者	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2014年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（小沢平登山口、津奈木一鳩待間の車道沿い、富士見下登山口手前の車道沿い ※いずれも国立公園特別保護区への接続域）		
	実施済	<p>小沢平登山口に繁茂しているオオハンゴンソウについて、尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、環境省、会津森林管理署南会津支署などに御協力いただきながら駆除活動を継続中。</p> <p>津奈木一鳩待峠間（ハルザキヤマガラシ）は、地元関係者（東京パワーテクノロジー・NPO法人 片品・山と森の学校）群馬県、片品村、環境省にご協力いただきながら防除活動を実施。</p> <p>富士見下登山口手前（オオハンゴンソウ）については、これまでの駆除活動の結果、繁茂を抑制できているため、今後も経過観察を継続する。</p>		
	2022年度	同上		
	2023年度	同上		
	2024年度	同上		
	目標値	期限	(いつまでに)	
項目		(何を)		
数値		(どうするか)		

○尾瀬を学ぶ場の機会の充実

- ・ 尾瀬に対する理解を深め、愛着や誇りを醸成するために、自然体験や学習を通して、尾瀬を知り、体験する機会を充実させます。

51. 子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
目的と概要	<p>児童養護施設やフリースクールに通う子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動を行う。</p> <p>【魅力発信】四季折々の景色や動植物の生態、山小屋の生業、国立公園が抱える環境問題や保護への課題など、映像や写真を通して生徒様向けの講演活動や学校イベントに積極的に参加。</p> <p>【取組主旨】自身が児童養護施設で過ごした経験談や、不安定な心を登山や自然に身を置く事でコントロールしてきた経験談を公演。子供達の生活環境がハンデではないという事の意識付けや、過酷な環境下で働く先生たちの心のケアも含まれる。国立公園をリアルな教育現場そのものとし、五感で感じたものを日常生活に活かしてもらいたい。</p> <p>【体験造成】蛍・夜行性動物・星空観察などのナイトハイク。山岳地での夜間行動という非日常体験を味わう。夕焼けや朝焼けの観賞とヨガや体操。日本が誇る景色を見ながら、体を動かす楽しさを学ぶ。歩荷体験。重たい荷物を背負ってみる事で、恵まれた環境で過ごしている事を実感してもらおう。登山道整備。草刈りやゴミ拾いを通して、守られるべき自然やマナーを身に着ける。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	10代男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内〔公園内+周辺〕（尾瀬小屋）、尾瀬外（社会福祉法人、学校等） 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	社会福祉法人、学校の視察誘致、学生誘致に向けた活動を実施。2021年は新型コロナによる誘致断念。		
	2022年度	サスティナビリティ学公演予定。 社会福祉法人、学校の視察誘致、学生誘致に向けた活動を実施予定。		
	2023年度	<p>■7月～8月にかけて、東京都世田谷区にある児童養護施設の高校生の就労体験を実施。およそ一ヶ月間、3名の高校生が山小屋で人生初めての労働を経験。</p> <p>■体験造成として、ナイトヨガ、モーニングヨガを不定期開催。</p>		
	2024年度			
期限	（いつまでに）			

目 標 値	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

52. 「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進事業				完了
実施主体	「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会（新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会）		連携先	新潟県教育委員会、 新潟市教育委員会等
目的と概要	新潟県魚沼地域振興局では、尾瀬での自然体験と奥只見開発の歴史学習を通して子どもたちの豊かな心と自然との調和を図るたくましい実践力を育成するため、2009年度に小中学生向けの「魚沼から行く尾瀬」環境学習プログラムを作成した。「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会は、県内（魚沼市を除く）小中学校での尾瀬を活用した環境学習の普及を推進している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	県内（魚沼市以外）の小中学校	
取 組	状況	実施中	期間	複数年（2009年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼他）		
	実施済	県内（魚沼市以外）の小学校1校が1泊2日で尾瀬沼に行き、自然体験学習を実施		
	2022年度	廃止		
	2023年度			
	2024年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

53. 尾瀬ネイチャーガイド養成事業				継続
実施主体	尾瀬ネイチャーガイド養成推進協議会（新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会）		連携先	奥只見郷ネイチャーガイド等
目的と概要	尾瀬⇄魚沼ルート利用者に対するガイド業務が継続的に行われるよう、後継者確保を目的に尾瀬ネイチャーガイドを養成する。			

主な該当戦略		ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	トレッキング愛好家、環境保全に関心のある層（副業、第2の職業）
取組	状況	実施中	期間	複数年（2017年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼他）、尾瀬外（魚沼市インフォメーションセンター）		
	実施済	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施		
	2022年度	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施し、魚沼市内外から5名が受講		
	2023年度	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施し、魚沼市内外から3名が受講		
	2024年度	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		
	数値	（どうするか）		

54. 尾瀬サステナブルプラン（尾瀬シーズンズスクール・尾瀬ネイチャーラーニング） 継続

実施主体	群馬県	連携先		
目的と概要	<p>尾瀬の魅力を生かし、実社会での課題解決に生かす教科横断的な教育であるSTEAM教育を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬シーズンズスクール：民間主体によるハイクオリティなSTEAM教育の事業化に向け、事業モデル（スキーム）を検討 ・尾瀬ネイチャーラーニング：入門的なSTEAM教育の題材として尾瀬を訪れた県内外の小中学校等にガイド代等を支援（補助） 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	学校や社会教育関係団体、尾瀬での学習意欲のある学生・社会人	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内、小中学校等（事前学習・事後学習）		
	実施済	尾瀬シーズンズスクール：2021年度は、モニター事業を実施した。 尾瀬ネイチャーラーニング：補助事業を実施した。		
	2022年度	継続予定		
	2023年度	継続予定		
	2024年度	尾瀬シーズンズスクール：民間主体に移行 尾瀬ネイチャーラーニング：継続予定		
目標値	期限	（いつまでに）		
	項目	（何を）		

目 標 値	数値	(どうするか)		
-------------	----	---------	--	--

55. 尾瀬環境学習推進					継続
実施主体	群馬県		連携先		
目的と概要	環境学習の場としての尾瀬の利用を促進するため、山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー及び尾瀬ネイチャーラーニングの受け入れ協力を実施するとともに、県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座を開催します				
主な該当戦略	ビギナー戦略		ターゲット	入山者全般、小中学校・公民館	
取 組	状況	実施中		期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内）、尾瀬外（県内の小中学校、公民館等）			
	実施済	山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー 県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座			
	2022年度	継続			
	2023年度	継続予定			
	2024年度	継続予定			
目 標 値	期限	(いつまでに)			
	項目	(何を)			
	数値	(どうするか)			

56. ふくしま子ども自然環境学習推進事業					継続
実施主体	尾瀬環境学習推進協議会事務局 (檜枝岐村)		連携先	福島県、檜枝岐村、南会津町	
目的と概要	本県の子ども達を対象に、尾瀬の優れた自然環境の中で行う質の高い環境学習を推進し、生物多様性に対する意識の醸成を図り、豊かな自然環境を次世代に継承する。				
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	県内の小中学校、特別支援学校	
取 組	状況	実施中		期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）			
	実施済				
	2022年度				
	2023年度	県内の小中学校、特別支援学校が日帰り・1泊2日等で尾瀬に行き環境学習を実施。			
	2024年度	継続予定			

目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

(6) 脱炭素・循環型公園プログラム

- 本取組テーマでは、ゼロカーボン実現に向けた取組、資源循環に関する取組の2区分で、計3の取組を実施します。

○ゼロカーボン実現に向けた取組

- 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

57. 「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」アクションプログラム				継続
実施主体	東京電力ホールディングス株式会社、東京パワーテクノロジー(株) 尾瀬林業事業所	連携先	片品村むらづくり観光課	
目的と概要	環境省が登録認定を行う「ゼロカーボンパーク」の実効性を高めるため、2022年度～2030年度までの実行計画を策定。片品村が改訂を予定している「片品村地球温暖化防止実行計画」との連動により、尾瀬国立公園内の脱炭素化、および片品村村内の脱炭素化に向けたアクションプランプログラムの策定とPDCAを展開する。計画策定事務局は、片品村むらづくり観光課と東京電力ホールディングス株式会社 ESG推進室の共同事務局により実施予定。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	ターゲットは【脱炭素や自然環境保全保護を意識した尾瀬利用者】 【再エネ利用住宅など、脱炭素を指向するIUターンの若者／子育て世代など新規片品村移住者】【既在住片品村村民の尾瀬自然環境保全活動の参加など尾瀬ボランティア化】等が特長	
取組	状況	実施中	期間	複数年(2022年～)
	場所	(尾瀬国立公園内、尾瀬の麓の集落)、尾瀬外(片品村内全域)、 情報媒体(Web:片品村、東京電力ホールディングス(株)、東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所 他、実施主体)		
	実施済	尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク登録に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【登録認定】尾瀬周辺市町村のゼロカーボンシティ宣言、尾瀬国立公園のゼロカーボンパーク宣言 ②【地産地消】尾瀬の木道にFSC認証を受けた地元カラマツ材使用 ③【リサイクル】尾瀬の木道リサイクルペーパーの積極的活用		
	2022年度	2022年度尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施		

		<p>①【尾瀬の役割認知度向上】本州最大の高層湿原による炭素固定吸収の役割、地球温暖化が及ぼす尾瀬への影響</p> <p>②【電化、EV 普及啓発】会津高原尾瀬口～御池でも EV バス運行、レンタサイクルを e-bike 化と充電ステーション設置</p> <p>③【リサイクル】山小屋での地元食材を使った料理提供（フードマイレージ）、マイバック・マイボトルの普及啓発、モバイルバッテリーレンタルサービス</p>			
	2023 年度	<p>2023 年度尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施</p> <p>①【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器（エコキュート）導入、LED 導入、鳩待山荘建替工事開始（再エネ電化）食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを加速</p> <p>②【村内の脱炭素化、再エネ導入】尾瀬片品小水力発電所の運転開始、移住定住促進住宅基本計画策定。</p>			
	2024 年度	<p>【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器（エコキュート）導入、LED 導入、鳩待山荘建替工事継続実施（再エネ電化）食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを継続</p> <p>【リサイクル】山小屋での地元食材を使った料理提供（フードマイレージ）、マイバック・マイボトルの普及啓発、モバイルバッテリーレンタルサービスの継続</p>			
目 標 値	期限	（いつまでに）	2022 年までに	2023 年までに	2023 年までに
	項目	（何を）	①、②、③のすべてを	①、②、③のすべてを	①、②、③のすべてを
	数値	（どうするか）	実施する（実施率 100%）	実施する（実施率 100%）	実施する（実施率 100%）

58. ゼロカーボンシティ表明とゼロカーボンパークの登録				継続
実施主体	片品村	連携先	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	
目的と概要	2022 年 2 月 22 日に表明した、温室効果ガス排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティ「片品村 5 つのゼロ宣言 2050」に基づき、具体的な取組を推進していく。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	国立公園内における電気自動車の活用や利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進め 脱プラスチックも含めて脱炭素 の観光地を目指すため、ゼロカーボンパーク登録を行う（登録関係書類提出済み）。		

	実施済	国立公園内における電気自動車の活用や利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進め 脱プラスチックも含めて脱炭素 の観光地を目指すため、ゼロカーボンパーク登録を行う（登録関係書類提出済み）。		
	2022 年度	尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会の設立 今後の取組み等について委員会やワークショップの実施、今後は分科会を開催する予定。		
	2023 年度	委員会での取組み等		
	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		

○資源循環に関する取組

- ・ 尾瀬の自然環境への負荷を低減するために、循環的な利用を促進するための取組を行う。

59. 鹿の食害問題の訴求				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要	<p>尾瀬小屋は、「食べる」というアクションを通して、国立公園が抱える鹿の食害問題を訴えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬を身近に想う方々の間では、ミズバショウやニッコウキスゲがなければ、尾瀬が尾瀬でなくなってしまうという危機感が高まる半面、尾瀬を守るために奪われた鹿の命がある事、その鹿の命を大切に活かし、人の暮らしの中で役立て、命の尊さを感じてほしい。 ・尾瀬の鹿は利活用される事なく食用として提供する事も叶わない状況にあるが、人間が山を楽しむ背景にはこうした命のやり取りがある事を伝えるべく、尾瀬小屋はあえて出荷制限が解除された鹿を尾瀬で「食べる」事を実現し、尾瀬鹿の食害問題を訴求する。 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	30代～50代男女	
取 組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬小屋）、 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済			
	2022 年度	鹿の食害問題を利用者に知ってもらうための方法を検討し、実践する。		
	2023 年度	■ジビエ料理の継続とインバウンド向けのジビエツアーを開催し、国内外に鹿の食害問題を継続的に訴求。		

	2024 年度			
目 標 値	期限	(いつまでに)		
	項目	(何を)		
	数値	(どうするか)		